

道徳の時間の特質

道徳の時間は こんな時間 … 小・中学校の「解説書」をもとに

小学校・解説書 道徳の時間は、①児童一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、②道徳的価値及び自己の生き方についての考えを発達段階に即して深め、③内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間である。〔79頁〕

中学校・解説書 道徳の時間は、①生徒一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、②道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、③主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。〔82頁〕

特質① 子ども一人一人が自己を見つめる時間

- 自己を見つめる時間…道徳の時間は、一人一人がねらいとのかかわりにおいて自己を見つめる時間である。
- 自己を見る目を豊かに…道徳の時間では、子どもが資料中の人物の感じ方、考え方だけでなく、友達を考え、今までの自分の姿や考えなどと比べながら、自己を見る目を深く豊かにしていく。
- 多様な考えで磨き合う時間…道徳の時間では、多様な感じ方、考え方との対比、対立などを通して学び合ったり磨き合ったりする。

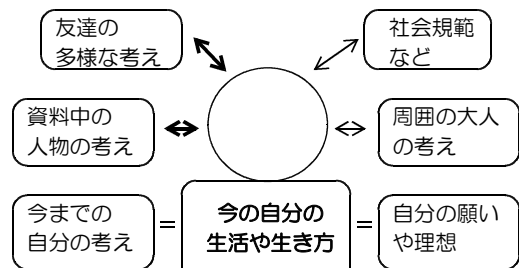


図 多様な考えと比べながら自己を見つめる

特質② 子どもが価値や生き方の自覚を深める時間

- 内面的に自覚する時間…道徳の時間は、子どもが道徳的価値についての内面的な自覚を深めていく時間である。
- 価値の自覚を基盤とした生き方…道徳の時間では、価値の自覚の中で、それを基盤として自己の生き方(小)や人間としての生き方(中)について考えや自覚を深めていく。
- 内的な体験を促す手立て…道徳の時間では、子どもの発達段階を押さえながら、生き方にかかわる内面的な思考を促す手立てが重要になる。

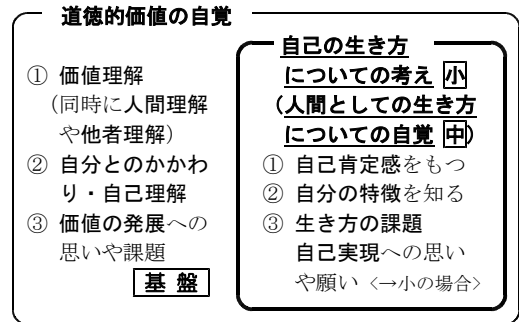


図 価値や生き方についての自覚を深める

特質③ 子どもが主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間

- 主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間…道徳の時間は、子どもが「主体的に道徳的実践力を身に付けていく」ための時間である。
- 子どもの主体的な追求…学習を子どもにとって主体的に追求している感覚がもてるようにすることが重要。受け身一辺倒では、主体的に道徳的実践力を身に付けていくことにはつながりにくい。
- 子どもの問題意識が生きた学習…図Aの指導は、教師の意図に強く引かれる受け身的、教え込み的な指導になりがち。Bの感覚の子どもの問題意識や個性的な追求が生きた授業が、より重要。

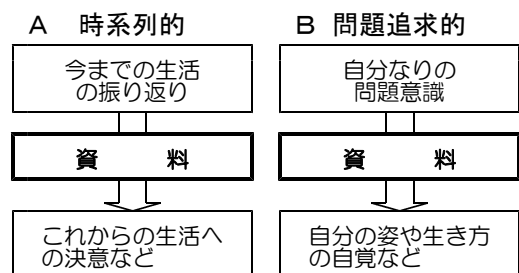


図 指導の流れについての2つの考え方(例)

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」